序　文

運動器とは，体幹および四肢を構成する脊椎，脊髄，骨，関節，筋，腱，末梢神経などの器官の総称である。それらの疾患は多岐にわたり，年齢層は新生児から高齢者まで幅広く，また性別を問わず全ての人が対象となり，急性疾患（主に外傷）と慢性疾患に大別される。運動器疾患に対する治療法は保存療法と手術療法に大別され，近年では疾患予防も重要視されている。それらの治療を行うには，適切な診断が必須である。運動器疾患の診断は，問診，身体所見，徒手検査をもとに，必要に応じ検体検査，生体検査，画像検査が実施され，総合的に確定診断に至る。そのなかで，画像検査は最も重要な役割を果たしている。

近年の医療機器の進歩により，画像検査は運動器疾患の診断に大変有用となったが，患者の検査に対する不安や身体への侵襲は，全ての画像検査についてありうる。医療に携わる者として，まずはこのことを肝に命じ，運動器疾患の画像について学ぶべきである。

本書『コメディカルのための運動器画像診断学』は，コメディカルの方々に運動器疾患の画像に親しんでいただくことを目的としており，難しい理論については省略している。各種画像検査法の詳細や，解剖学，生理学，運動学の詳細については，参考図書や文献などから学んでいただきたい。まずは正常の運動器の画像模式図をじっくり見て，各部位の解剖学的特徴を捉えたうえで，疾患の画像を見ることで，その疾患の画像について理解していただけるはずである。

看護師，理学療法士，柔道整復師，臨床検査技師，放射線技師，アスレティックトレーナーなどの医療に携わる方々に，本書を活用していただけることを祈る。また，ご批評とご助言をお寄せいただき，有意義な改訂がなされていけば，筆者としてこのうえない慶びである。

2013 年 4 月

了徳寺大学 健康科学部 医学教育センター 教授
橋本　俊彦